

## 市民協働事業提案1 「広域大規模災害時におけるNPO等と行政社協の連携体制構築」報告

## 提案概要

## 【課題】

災害時の被災者ニーズは時間経過とともに変化するため、多様なNPO等民間団体と横浜市、社会福祉協議会が情報を共有し、連携して幅広い被災者支援活動することが必要

## 【解決に向けた提案】

変化する被災者の幅広いニーズに対応する体制が構築されていないという課題認識の共有と、連携・協働を進めるより多様な団体等とネットワークづくり

## 今回の報告

## 【令和4年度の取組】

- ・三者連携の必要性の共有  
→市民局との定期的な情報交換、学習会の開催（災害時の外国人支援）
- ・民間連携のネットワークづくりと参加団体の拡大  
→災害時の子どもの居場所づくりワークショップの開催、西区にしとも広場での勉強会

## 【今後の取組】

- ・三者の情報交換や勉強会の継続実施
- ・分野別の災害対応学習会など拡大、深化
- ・区域での展開（今年度西区にしとも広場で実施した勉強会を他区に展開する等）
- ・JVOADそなえ基金などで資金調達

## 部会委員からの主な意見

・障害者や子どもなど災害弱者に対して、当事者の声を聞きながら、対応できる仕組みができるとよい。

・つながりづくりだけでなく、人々の声を集約して発信する活動にも取り組んでほしい。

・資金調達に関して、助成金以外にも、防災関連の企業にアプローチするなども考えてはどうか。

## 提案概要

### 【課題】

療育センターを利用している家庭における、きょうだい児の預け先を確保することや、預け先への送迎が負担

### 【解決に向けた提案】

北部地域療育センター内で地域の支援を活用して、きょうだい児保育を定期的に行う。

## 今回の報告

### 【令和4年度の取組】

- ・きょうだい児保育実施：38日  
利用者及び療育センターからの声  
→安心感と負担の軽減になる  
利用可能日が増えてほしい  
利用料金の負担軽減してほしい  
保護者と地域がつながるいい機会  
曜日固定なので利用できない人がいる
- ・サポーター養成講座：2回  
18名参加

### 【今後の取組】

- ・他区へのモデルケースへ
- ・サポーター研修による地域の担い手づくり

## 部会委員からの主な意見

- ・他の療育センターにも横展開されることを期待する。
- ・このような取組を行っていることをPRしていくため、横の連携が強い18区の地域子育て拠点にもアピールしてはどうか。
- ・実績の見せ方として、言葉だけでなく数値化することで共感を得られやすくなる。そうすると政策としてきょうだい児保育を取り上げやすくなるのでは。

## 提案概要

### 【課題】

人の生活空間から漏洩したプラスチックが河川に流れ込み、それが海に流入・集積することで、海洋プラスチック汚染が起きている。

### 【解決に向けた提案】

河川を流れるプラスチックなどのごみを、泡の作用で収集・回収する〈バブルバリアシステム〉を河川の河口付近に設置する。

## 今回の報告

### 【令和4年度の取組】

- ・システム設置・稼働  
→許認可等の関係で現時点で設置見込みが立っていない。
- ・環境教育  
→稼働装置を見せながらの環境教育はできなかったが、小学校高学年を対象とした環境イベントを3月に開催

### 【今後の取組】

- ・大岡川川岸での新設置場所について港湾局とともに折衝
- ・集積ごみの対応・システム運用などにおける仲間づくりをしていく

## 部会委員からの主な意見

・ NPO法人と民間企業の協働は双方に大きな意義、成果をもたらす。

・ 川の中や表面の生態系への（おそらく良い）影響もあるのでは。 モニタリングして水中の生物調査をしてはどうか。

・ そもそもごみを出さないということを小さい頃から分かってもらうことは重要。ぜひ子どもたちに伝えてほしい。

・ 他部署との連携によりさらに広がりが出るのではないか。